

育成会

かわさき



知的障害者親の会 会報 No.188

2018・2・1

新年のあいさつ

川崎市育成会手をむすぶ親の会
会長 結城 眞知子

明けましておめでとうございます。皆様には良き新年をお迎えることと存じます。

昨年も会員の皆様のご理解とご協力のもとに、会の活動を続けてこられましたことに深く感謝申し上げます。

さて、川崎市では、高齢者、障害者、子育て中の親、すべての地域住民を対象として、誰もが住み慣れた地域や自らが望む場で安心して暮らし続けることができる地域の実現に向けて「地域包括ケアシステム」の構築をめざしています。昨年、「地域包括ケアシステム」の講演会にシンポジストとして登壇する機会がありました。その時に感じたのは、私たちの子どもは、地域に支えていただくことが多いのが現状ですが、まずは、地域住民の方に知的障害を理解していただき、それぞれが持っている能力をいかして地域の助け合いに参加できないだろうかということです。

地域に一步踏み出すには、障害者の親には少しの勇気が必要かも知れませんが、仲間を誘って一緒に参加するのも良いと思います。

また、1月に各区域で、高齢・障害・地域福祉計画の区民説明会が開催されました。説明会に参加された方は、ご意見を会までお寄せください。活動の在り方を模索するきっかけにしていけたらと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

それから、先日、1月13日(土)川崎市民プラザに於いて「平成30年成人を祝う会」が開催され、福田市長をはじめとして、多くの来賓の方々やご家族と共に“成人のお祝い”を行いました。回を重ねて今年は30回となり、成人参加者も年々増えてきております。

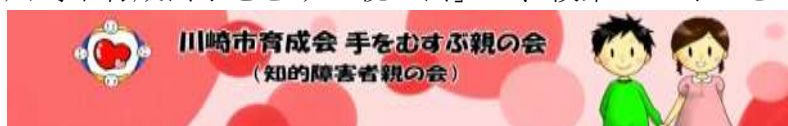
大勢の方とお祝いできるのは、大変喜ばしいことです。特にご家族の方は、我が子の立派に成人した姿に感慨深かったと思います。成人者の一人ひとりが、明るく前向きに暮らしていけるような社会になるよう、当会も共に考え、微力ながらお手伝いができたらと思っています。

新成人を迎えられた皆様おめでとうございます。自分らしく輝ける未来と幸せを心よりお祈りいたします。

本年9月14日に「第52回手をつなぐ育成会関東甲信越大会・川崎大会」を開催します。ご支援とご協力をよろしくお願い致します。

ホームページ

「川崎市育成会手をむすぶ親の会」で、検索してください。



平成30年成人を祝う会 平成30年1月13日(土) 川崎市民プラザ

市長祝辞

川崎市長 福田 紀彦



新成人の皆さん、本日は誠におめでとうございます。保護者の皆さん、先ほど記念撮影を皆でしましたが、新成人の皆さん以上にお喜びの顔を拝見できまして、感慨もひとしおのことと思います。本当におめでとうございます。そして、今日は、この“成人を祝う会”を主催していただきました実行委員長はじめ役員の皆さん、ご臨席をいただいております学校の先生方、施設の方、あるいは事業所でご協力をしていただいている方など、様々な関係者の方と一緒にお祝いをできることを大変嬉しく思っております。

今日は、お祝いの言葉に何をお話しようかと思っておりましたら、写真撮影の際に、先週とどろきアリーナで行いました“成人の日を祝うつどい”に参加して、私の話を聞いていただいた新成人の女性から声をかけられました。「過去も変えられるという話、すごく良かったですよ。」と、ほめていただきましたので、その話をしたいと思います。これから皆さんは一人一人違ったそれぞれの挑戦を、それぞれの頑張りをして、自ら未来を切り開いていきます。未来の選択は皆さんの手の中にあるのですから、いろいろなことで変えていくことができます。

もうひとつ、過去も変えられるのです。私は、今45才ですが、45年間気づかなかったことに最近気付かせていただいた、という話をしました。私も、人に言いたくないようなつらい出来事だとか、あるいは残念な話だとか、もう自分の記憶から失くしてしまいたいようなことはたくさんあります。おそらくここに集まっておられる方も、皆さんそういう経験はあると思います。そのことを、私は自分の中から忘れたいなど、ずっと45年間思ってきましたが、ある人の言葉で、私は大きく変わることができました。過去も変えられるのだということを教えていただいた。確かに、起こった事実そのものを変えることはできません。しかし、その起こった事実をどう捉えるかによって、見方を変えることで、過去に起こったことの見方を変えることができるのだと、最近知りました。私は、ある意味自分を変えることができたと思っています。皆さんの中にも、そういう経験だとか、あるいは思い出したくないようなこともあるかもしれません、これからはあると思います。

しかし、そういったことを、自分の中でどう受け止めて、ああ、あのつらいことがあったからこそ、今自分がこういうことが出来たのだ、今自分が一緒に頑張ってるやれる友達がいるのだ、あるいは家族と一緒に頑張れるのだ、というような見方を変えることができるのだと思います。ですから、過去に起こった事実そのものは変えられなくても、過去の出来事をどう捉えるかによってこれからの皆さんの歩む人生そのものが変わっていく。進んで未来を変えていくことは、大事ですけれども、すでに起こった過去のこと、自らの見方、心の持ちようで変えることができるということです。それぞれの皆さん、お一人お一人でこれからいろいろな挑戦があると思います。是非、前向きに頑張ってくださいと思います。



一番前列に座っておられる加藤稚菜(わかな)さんは、ボッチャの大会で、世界で活躍しておられます。先日、市長表敬ということで市役所に来ていただきました。素晴らしい活躍を、スポーツの世界でしている方もいれば、昨年末ミュージアムで行われたフラット展という障害者のアート展覧会では、素晴らしい作品ばかりでした。川崎市内で活動していて、絵を描いたりあるいはデザインで頑張ったりしている方の作品が、傘のデザインになったり、絵そのものが非常に評価を受けています。皆さん違った才能を持っています。その才能を最大限生かして、それが報われるような社会を私たちみんなで作っていきたく思います。そういう川崎市を作れば、誰にとっても良い川崎市になるのだと信じて、これからも頑張っていきたいと思えます。お一人お一人の前途が素晴らしいものでありますことを心から祈念してお祝いの言葉とさせていただきます。おめでとうございます。

成人者誓いのことば

富澤 ^{けいた} 勁太

この度は成人を迎える私たちの為にご足労頂いたご家族の皆様、ご関係者の皆様まことにありがとうございます。この度誓いのスピーチをさせて頂く富澤^{けいた}勁太と申します。この度のスピーチでは今頑張っている仕事の事や趣味の事将来の夢や成人してこれから考えている事、そして決意などをふつつか者ですが語らせて頂きます。



私は高校を卒業したのち、ファイブフォックスと言うアパレル企業に就職しいろいろなことを学びました。私の主な業務内容は、商品を保管し管理して出荷する業務をしていますので、ミスをしないように管理し出荷するように心がけ頑張っております。最近の私の趣味は、職場の先輩方と食事をしたり映画を見に行ったり、色々なところに行くことが私の趣味となり、社会人となってから色々なことを体験し私の中の世界が広くなりました。そして、自動車教習所にも通い、普通自動車免許を取得する事も出来ました。



将来の夢はいつか結婚して家庭を持つ事が私の夢です。成人してこれからはいつか家族を持つ日の為に家族を養える立派な社会人になれるよう頑張りたいです。今まで支えて下さった家族やご関係者の皆様の思いを無駄にしない為にも、立派な社会人になれるように頑張っていきたいと思います。これで私のスピーチを終わります。ありがとうございました。

佐藤 ^{まさひろ} 将洸

私は今、富士電機フロンティアで働いています。会社では社内のメール集配や書類のPDF化、また製本の作業も行っています。会社ではまず「お客様にどう喜んでもらえるか」を教えていただいています。自分でも「周りの人が笑顔になってもらえるように仕事をする」ということを常に考えて仕事に取り組むようにしています。



もともと私は人と話すことが苦手でした。鶴見養護学校の時に生徒会長になった頃から人前が出る機会も多くなり、会話をすることに少しずつですが自信を持つことができました。この経験は今の仕事でもわからない時に相談をすることや業務の報告にもつながっています。中学校までは内気だった私が今こうして皆さんの前で話ができるのも養護学校での先生との出会いや会社で厳しくも私のことを思って指導して下さるスタッフの方々、そして何より今まで支えてくれた家族のおかげだと思っています。



これからは家族みんなが笑顔で過ごしていけるように、立派な社会人になって恩返しをしていきたく思います。どうもありがとうございました。

平成29年度川崎市障害者週間記念のつどい

12月9日（土）川崎市国際交流センターで開催されました。川崎市副市長伊藤弘氏のご挨拶の中の「これからの川崎は障害がある人もない人も、寛容（お互い認め合う）と互助（支えあい助け合う）の関係の社会実現」という言葉が印象的でした。



第1部 式典

心の輪を広げる体験作文・障害者週間のポスターの優秀者表彰と市民の福祉功労者の表彰がありました。川崎市育成会手をむすぶ親の会から、近藤節子さんが、「心身障害児（者）福祉功労者」として表彰されました。おめでとうございます。（吉野 明美）

第2部 記念講演会 「障害者と偏見について」

講師 石山 春平 氏



講師の石山さんは、小学校六年生の時にハンセン病を発症しました。16歳で強制隔離により療養所に收容されるまでは、家の納屋で生活していたとのこと。その壮絶な青春時代を、語りかけるように優しくお話されるのを聞いて思わず目頭が熱くなりました。

ハンセン病は遺伝する病気ではなく、菌に感染しても発症することが少ないそうです。それが戦前の間違った国の政策によって、強制隔離されてしまったのです。親族にハンセン病の人がいるというだけで、縁談がダメになったりした人も少なくないのだとか。そのために多くの患者は、療養所を退所しても故郷には帰れなかったそうです。

石山さんは療養所を退所してからは、結婚して、子どもも授かったそうです。子どもが小学校の時に、生徒の中に石山さんの外見に対する偏見が生まれていることに気が付き、そこでPTAで役員を引き受け、積極的に学校に足を運んだのです。その結果、生徒達だけでなく、教員や親たちからも偏見はなくなったそうです。

石山さんは卒業証書の一つももらっていないそうです。それでも自分の人生を不幸だと思ったことはないと言いました。そのたくましさには脱帽です。人を嫌いになるのは良いけれど、人の言うことを鵜呑みにして信じてはいけないという言葉が重く響きました。私たちは知らないうちに、偏見という見えない武器で人を傷つけているかもしれないのです。そのような偏見のない社会を作っていくためには、あらためて思いました。（梅田 順子）



民生委員・児童委員の方々との懇談会（役員研修）

研修事業推進委員会副委員長 神田 明子



10月27日（金）民生委員児童委員との懇談会を行いました。障害児・者であるわが子を知っていただきたいという思いから交流をするようになって久しいのですが、今までの対面式の懇談ではなく、市内を南部・中部・北部の3つのグループに分かれ地区ごとの災害に対する意見交換という形式をとりました。

まず、熊本に支援に行かれた行政の野木さんのお話を聞いた後、感想や住んでいる地区ではどうしたらいいのかなどを話し合いました。民生委員さんや役員ともに地元のハザードマップを見ながらの話し合いは地域での出来事や避難場所の確認など踏み込んだ会話につながりとても有意義な時間となりました。

～知的障害理解のための研修会～ 「知的障害疑似体験」をしてみませんか？

権利擁護委員会委員長 仁尾 智都子



講師 「ピース&ピース」(知的障害疑似体験チーム)
たつの市手をつなぐ育成会会長 矢野 一隆 氏
たつの市地域福祉課主査 勝又 雅裕 氏

11月24日(金)知的障害疑似体験をユニオンビルセミナールームで開催しました。曖昧な言葉を理解する難しさ、自分の

思いが伝わらないもどかしさ、障害がある故の独特な物のとらえ方・見え方などを体験しました。

少し緊張した雰囲気であった研修会でしたが、お二人の巧みな話術にだんだんと引き込まれ、疑似体験をしながら笑いや感嘆といった声会場を包んでいきました。この体験から、支援される側の気持ちをストレートに感じ、親としても反省することしきりでした。

研修会終了後のアンケートには、「子どもがもっと小さかったころに、この研修を受けていたら・・・」「楽しく障害のある人の気持ちを勉強できました。」といった声をたくさんいただきました。また、「このような研修会を小学校などで行ってほしい。」といったご意見もあり、今後の当会の活動に向けて背中を押してもらえたように思えました。

今回は権利擁護委員会として初めての大きな研修会でしたが、会員の皆様をはじめ、障害のある方のご家族、福祉関係や行政の皆様など、様々な立場の方々に参加いただけたことが大きな喜びとなりました。このようなつながりをこれからも大切にしたいと思えます。



「おしゃべり塾」報告と次回のお知らせ

権利擁護委員会委員長 仁尾 智都子

12月6日(水)おしゃべり塾を地域福祉施設「ちどり」で開催しました。参加者は15名でした。今回は、「グループホーム、入所、自宅で暮らす」～それぞれの支援の形～と題し、たかつ基幹相談支援センターの荒井さん、くさぶえ地域支援相談支援センターの漆山さんを講師に迎え、親の支援なきあとの住まいと生活について事例を挙げてお話を伺いました。住まいをどこにするのか、どのような形を選択

するのかなど、生活全般を考えなければならないとても重要な作業だと感じました。また、参加者から、「障害者サービスと介護サービスの併用など、高齢になった障害のある人への支援がどのようになるのか、心配です。」という声がありました。これに対しては、「障害者サービスと介護サービスの両方を実施している事業者と契約するなどして、支援がスムーズに移行できるよう工夫しています。」とのことでした。お話の最後に、自立支援協議会の相談部門での活動紹介もあり、地域との連携でインフォーマルな支援が生まれていることを知り嬉しく思いました。

今回、具体的なお話を伺うことができ、将来について考えることができました。また、機会があれば、高齢期についてお話を伺いたいと思えます。

さて、次回は、3月9日(金)テーマは、「成年後見制度」について(基礎編)です。NPO法人かわさき障がい者権利擁護センター理事田部井恒雄氏を講師に迎え、わかりやすく説明していただきます。

詳しくはチラシをご覧ください。皆様のご参加をお待ちしています。



NPO 法人かわさき障がい者権利擁護センター

模擬相談会 「親亡き後のために、今すべきこと」 川崎支部 小西 真弓

1月6日(月) 模擬相談会が行なわれました。

【事例1】 講師 大石 剛一郎 弁護士

「自分の意思をあまり示さない人の意思決定支援」

40代男性、重度の知的障害、両親と兄弟の4人暮らし、日中は通所事業所で活動

・将来、困るであろうことの準備を具体的にすすめておくことが大切

【事例2】 講師 神谷 直 司法書士

「父親の相続について」

50代女性、重度の知的障害、高齢の母と2人暮らし、近くに姉の家族がいる、

日中は通所事業所の作業、父親は最近他界遺言なし

・こういう場合は、正しい遺言書を作成しておくことよい

我が家もなんとなく、そのときのために準備をしておかなくてはいけないと思いつつ実感がなく準備ができていないのが現状です。準備の必要性もさることながら私がいなくなった後、どんな人にめぐり合っていくのかと思うと、「どうか当たりくじでありますように。」と祈らずにはいられなくなりました。



地域包括ケアシステム講演会

会長 結城 眞知子

1月22日(水)に川崎市医師会館において、東京大学高齢社会総合研究機構特任講師後藤純氏による「地域包括ケアシステムと多様な主体が協力・連携して行う地域づくり」についての講演がありました。地域包括ケアシステムの構築に向けた川崎市の取り組みのお話もあり、互助力の強化・活性化に向けて地域住民と行政が協力・連携して行う「地域づくり」が重要であることを実感した1日でした。



講演を踏まえてのパネルディスカッションでは、地域で活動している「すずの会」鈴木恵子氏(主に高齢者を中心に活動)、「こんにちは赤ちゃん訪問」稲本文雄氏・妙子氏、知的障害者親の会として私がパネリストとして登壇しました。

それぞれの活動内容を聞いて思ったのは、地域に根差して活動することの大切さでした。

当会では、行政や関係団体には、障害の理解啓発に努力をしてきましたが「親亡き後も地域で安全に、そして幸せに暮らしていけるようにと願って活動している」にも関わらず地域住民の方々との関係は、希薄であることを痛感しました。

いつ起こるか分からない災害のこともあるので、まずは、ご近所の方と顔見知りになること。そして、障害のある人たちのなかには、集団の中に入れられない人も多いので、地域に入っていくのはハードルが高いのですが、まずは、親だけでも地域の防災訓練などに参加して交流することの必要性を切実に感じました。

研修会のお知らせ

『知的障害のある人が安心して受診する為に』

～川崎市の歯科医療機関での障害児者対応の現状と取り組みについて～

日時 平成30年3月20日(火) 10:30～12:00

場所 KSPホテル会議室709(かながわサイエンスパーク)

講師 公益社団法人川崎市歯科医師会 常務理事 高森 勝久氏

やまゆり研修会

知的障がいのある方が高齢になっても、

地域で安心して豊かな生活を送るということ



講師 社会福祉法人唐池学園貴志園 富岡 貴生 氏

11月22日（水）横浜市保土ヶ谷区の岩間市民プラザで研修会が開催されました。講師の富岡氏が施設長を務める貴志園は、綾瀬市にあり、入所施設、通所施設（生活介護事業、就労継続 B 型事業、就労移行支援）グループホーム、障害児放課後等デイサービス、相談事業など、多岐にわたって事業を展開しています。

冒頭、富岡氏は、私たちに「豊かな生活って何だろう？」と、問いかけました。「仕事があること」「家庭があること」「友達がいること」「自分の楽しみがあること」そのすべてが含まれて豊かな生活と言えるのではないか、どれひとつでもバランスが崩れたら豊かな生活とは言えないと。特に、障害のある方が豊かな生活を送るためには何が必要かを考えたいと、具体的な事例を交えながら話をされました。

高齢と障害、相談支援専門員と介護支援専門員、今まで別のサービスを提供していた「支援をする側」は、まず利用者を通して情報交換し、つながることが大切です。講師曰く、職員や相談員は意外に自分が相談することは苦手なようです。本人に会う。家族の話を聞く。丁寧なひきつぎをする。一緒に働きながら、研修会や事例検討でお互いに相談し合う関係を作る。なるべく支援内容の変化を少なくしないと、本人が混乱します。その生活のしづらさはどこにあるのか、制度の違いのある中で、どのようなサービスで対応したら良いのか見極めることが、大変重要なことです。そのために連携が必要なのです。

また、豊かな生活のためには、社会参加も大切です。本人の生活の質を高めるために、地域にある資源を自然に利用する、それで地域とつながりができる。社会的経験の不足から、自分が何をしたいのかわからない人には、意思決定支援でサポートして地域の中で、自分の望みをかなえるために経験を積み重ねる。実行する。自信がつく。成功体験の積み重ねで活動範囲が広がります。富岡氏の話す貴志園の利用者の方々の様子は、自分の希望を実現して楽しく過ごす、心豊かな生活に思えました。（高山 君子）

 障害者週間「連続セミナー」全国手をつなぐ育成会連合会企画

「糸賀一雄思想『この子らを世の光に』とともに共生社会の実現に向かう」



川崎支部 加藤 敦子

12月8日（金）、有楽町朝日スクエアにて開催されました。糸賀一雄記念財団理事長の辻哲夫氏、毎日新聞論説委員の野澤和弘氏、(社福)北摂杉の子会理事長の松上利男氏、(社福)ゆうゆう理事長の大原裕介氏、育成会からは久保厚子会長が出演され、共生社会について考えました。

松上氏の法人は大阪府で強度行動障害の方々も利用されるグループホームを運営され、大原氏の法人は主に北海道を拠点に、障害児者と高齢者が地域の人々とともに活動できる施設を運営されています。2人が共通して言われていたのは、「当事者や保護者と支援者との相互理解」「支援者の専門性」「地域の共感を広げる」「地域やその他様々な人たちとの理解や結びつきの大切さ」でした。

支援者の方々には当事者や保護者が安心して関わることのできる専門性を求めるとともに、私たちも勇気を持って積極的に地域と関わり、より多くの人々に障害について認知して頂く努力が大切であるという思いを強くしました。私たちにも多くの理解者がいることを感じ、たくさんの元気を頂けたセミナーでした。

支 部 通 信

「川崎区社協 福祉まつり」に参加して

川崎支部 安達 ゆかり



11月18日(土)川崎市教育文化会館にて、川崎区社会福祉協議会主催で開催されました。私たちの展示品を見て、お年寄りやご家族連れの方々が、手作り品や親の会について、話しかけてくださいました。会員の方も寄って下さり、近況をお聞きすることが出来ました。

会場は、「ふれあいマルシェ」「ふれあいエリア」「ごゆるり横丁」に分かれ、自主製品販売、活動紹介、体験、作品作り、福祉相談といろいろ楽しめる内容となっていました。福祉まつりで親の会や子どもたちの活動に関心をもってくれた多くの方々に、お会いする機会ができ、とてもうれしく感じました。

川崎支部研修会&茶話会

川崎支部 小西 真弓



12月5日(火)かわさき障害者福祉施設たじまにて、川崎区地域自立支援協議会相談支援委員会の皆様を講師にお招きし“グループホームについて”研修しました。

研修会では、知的障害者、身体障害者、精神障害者、それぞれのグループホームについての費用の話や世話人の体制の話、入居者の1日の過ごし方など写真などを含め具体的にお話をいただきました。会場を3ブロックにセッティングし、研修終了後の質疑応答をグループで行ない、たくさんの質疑応答がされ、とても有意義な研修会となりました。

その後の茶話会でも各ブロック少人数でしたので、各自の近況や経験されたことなどをお聞きする事ができ、会員同士のコミュニケーションを深めるよい機会となりました。

おしゃべり多摩

多摩支部 神田 明子

12月1日(金)福祉パルたまにてお茶とお菓子を囲んでおこなわれました。今回、同じ事業所で余暇サービスを利用している人が集まったということもあり、そのサービスについての情報交換をすることができました。グループホームに入所している方も余暇サービスを利用することができるという情報をいただき、子どもの将来の計画に組んでみようという目標ができました。しかし、子どもさんの中には、担当して下さっていた方の異動に伴い、今まで利用していたサービスが受けられなくなってしまったご家庭や休日の余暇サービスが不定期でなかなか受けられず苦慮しているという声もありました。さらなる情報交換やいろいろなところへの働きかけの必要性を感じて帰りました。



川崎市育成会・やまゆりとの共催研修会

日 時：2月20日(火) 10時～12時

場 所：川崎市総合福祉センター(エポックなかはら)7階 大会議室

テーマ：『親亡き後も知的障害者が安心して暮らすためのお金について』

パート2 ～知的障害のあるわが子の生活をだれに託すか～

講 師：又村 あおい氏(全国手をつなぐ育成会連合会 政策研究開発センター委員)



田島支援学校 学習発表会

田島支援学校支部 島田 可奈子

10月28日(土)桜校にて、小中学部、11月3日(金)本校にて、高等部の学習発表会が行われました。息の合った学年群読やダンスや合唱、舞台背景画や小道具の美術作品も、1人ひとりが練習と準備の成果を発揮し、みんなで協力して発表している姿がとても感動的で、多くの保護者、来賓の方々より大きな拍手をいただきました。また、発表会始まりには、毎年恒例のお母様方「本の会」による「桃太郎」を操演。登場人物が過去最多という大作な為、沢山の練習を積み本番に挑んでいました。ピアノの音色にのり、歌を唄ったり、子どもたちから沢山の拍手もあり、とても華やかで賑やかな発表となりました。



中央支援まつり

中央支援学校支部 鈴木 佳子

11月18日(土)に中央支援まつりが行われました。今回初めて、洗足学園音楽大学交流コンサートがあり、生徒もみんな立ちあがって踊ったりと大変盛況でした。また、ゲームコーナーでは、輪投げ・魚釣りなどを楽しみました。体育館では、恒例のフリーマーケットと福祉施設の製品販売や生徒たちの製品の紹介もあり、模擬店には、豚汁・焼きそば・おにぎりなどがありました。生徒の皆さんも一緒に買物をしました。分教室の生徒によるお茶席、喫茶室も好評でした。高津高校軽音楽部ボランティアと高等部生徒のセッションでの、ミニコンサートも超満員。



卒業生や地域の方もご来校になり、素晴らしい一日でした。

私たちの広場 「勉強会」

支援者 針木 正子



11月12日(日)「勉強会」を行いました。昨年の足つぼマッサージに続き第2弾「ストレッチ・自分でできるマッサージなど身体を整える方法」を講師の方より教えていただき、スッキリ、シャキッと姿勢もよくなり自分癒しの研修になりました。

頭と体をつなげている。背骨を動かすと骨盤が動き、骨盤が動くと背骨が動き、背骨が動くと肩甲骨が動くとのこと。講師の号令に合わせて、ストレッチをしました。皆さん、意外や柔軟な体を持ち、しっかり前屈できました。普段、何げなく動かしている動作を、体の上から順番に動かしてみると何とも小気味がよく「人体パワー」がみなぎり、来年も活躍の年となりそうなひと時となりました。

2018年度版

生活サポート総合補償制度

普通傷害保険(知的障害者等福祉団体傷害保険特約、地震・戦火・津波危険補償特約セット)

被保険者
(補償の対象者)

知的障害児または自閉症児がご加入できます。

補償期間 (保険のご契約期間)

2018年4月1日から
1年間

掛金

入院2日目から補償プランB
掛金... **23,000円** (保険料 19,810円)

入院4日目から補償プランA
掛金... **17,000円** (保険料 14,810円)

詳細は担当代理店・設者または引受保険会社にお問い合わせください。また、ご契約に際しましては、事前に重要事項説明書(契約概要・注意事項等)を必ずお読みください。引受保険会社の損害保険事業人は、保険契約の締結の代理権を有しています。

AIU損害保険と富士火災海上保険は、関係当局的認可等を前歴として、2018年1月1日に合併による経営統合を行い、「AIG損害保険」になります。

保険のお問合せはこちら

担当代理店・設者
株式会社 ジェイアイシー
〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビル2号館2F
TEL: 03-5321-3373 FAX: 03-5321-4774
受付時間: 午前9時～午後5時
(土・日・祝日・年末年始を除く)

ご加入のお問合せはこちら

引受保険会社 (2018年1月1日以後)
AIG損害保険株式会社
http://www.aig.co.jp
AIG損害保険株式会社
http://www.aig.co.jp/sompo/

東京第二プロチャネル営業部
〒163-0814 東京都新宿区西新宿2-4-1 新宿NSビル14階
TEL: 03-6894-9110
受付時間: 午前9時～午後5時(土・日・祝日・年末年始を除く)

2017年11月現在の内容です。(A-000801 2018.11)

※平成30年1月現在 8,908名の加入がありました。毎月1日付で加入できます。ご加入よろしくお願いたします。

第4回ふれあいバザールみぞのくち

11月16日(木)10時から、JR武蔵溝ノ口駅改札外南北自由通路にて、市内19施設の参加で開催されました。

それぞれの施設のイチオシ商品やクリスマス・お正月グッズ、かわいいもの、おしゃれなもの、便利なエコバッグ、リメイクされたもの、美味しそうなお菓子などがずらりと並べられていて、販売担当の方々の元気な声に引き寄せられるように、多くの方が足を止めていました。4回目ということもあり、お得意様もいらっしやっているようで、とても賑わっていました。次回も楽しみにしています。(三浦 ルイ子)



平成29年度川崎市障害者作品展

副会長 美和 とよみ



12月20日(水)～24日(日)までアートガーデンかわさき第1展示室で開催されました。

障害の種別を問わず、市内在住・在勤・在学であれば、誰でも出展することができます。知的障害、自閉症、精神障害の方が参加するようになって2年目になります。作品の数は、まだまだ少ないですが、障害者通所施設からの参加も増えてきました。作者の個性豊かな作品の前でじっと見入る方

がいたり、何度も来場される方もいらっしやいました。

「うちの子の作品でいいのでしょうか」との問い合わせが数件あったと聞きました。誰もが参加できるアットホームな作品展になればいいと思います。

来年度も同じ時期に開催の予定です。今から、作品作りに取り組んで、ぜひ、出展して下さい。また、お知り合いの方にお知らせしていただけたら幸いです。

「第52回手をつなぐ育成会関東甲信越大会 川崎大会」開催のお知らせ

大会テーマ 「これからも ここで 暮らしたい」

日程 平成30年9月14日(金)

会場 全体会 ミューザ川崎シンフォニーホール

分科会 川崎日航ホテル

本人会 藤子・F・不二雄ミュージアム

懇親会 川崎日航ホテル

・第1分科会 「働く」 ・第2分科会 「高齢」



川崎市育成会として初めて運営を担当する大会です。実行委員会で内容等を計画していますが、大勢の会員のご協力がなければ運営も難しいと考えています。

皆様のご協力、よろしくお願いたします。

寄付	一般社団法人	川崎市弘済会	100,000円
賛助会費	結城 隆	川崎区藤崎	10,000円
	美和 幸嗣	多摩区宿河原	10,000円
	山田 壮一	高津区末長	5,000円
	吉野 謙二	中原区市ノ坪	5,000円
	渡辺 宣子	幸区小倉	10,000円
	匿名	川崎区	10,000円



※1,000円以上の方を記載しています。(順不同・敬称略)

川崎市育成会手をむすぶ親の会活動報告

《平成29年10月20日～平成30年1月16日まで》

<各種会議、行事>

10月27日(金)	民生委員児童委員との懇談会	地域福祉施設「ちどり」
11月2日(木)	三役会議	地域福祉施設「ちどり」
17日(金)	第4回研修事業推進委員会	地域福祉施設「ちどり」
21日(火)	第7回運営委員会	地域福祉施設「ちどり」
24日(金)	知的障害疑似体験研修会	ユニオンビル
28日(火)	第3回広報委員会	地域福祉施設「ちどり」
12月6日(水)	おしゃべり塾	地域福祉施設「ちどり」
7日(木)	第4回余暇活動委員会	地域福祉施設「ちどり」
14日(木)	川崎市弘済会よりの寄付受領	地域福祉施設「ちどり」
15日(金)	三役会議	地域福祉施設「ちどり」
15日(金)	川崎大会総務担当ワーキング	地域福祉施設「ちどり」
19日(火)	第4回権利擁護委員会	地域福祉施設「ちどり」
21日(木)	第8回運営委員会	地域福祉施設「ちどり」
1月10日(水)	三役会議	地域福祉施設「ちどり」
16日(火)	第9回運営委員会	地域福祉施設「ちどり」

<対外行事>

11月9日(木)	平成30年成人を祝う会②実行委員会	地域福祉施設「ちどり」
9日(木)	平成29年度第3回障害者部会	エポックなかはら
16日(木)	第4回ふれあいバザールみぞのくち	溝口駅南北自由通路
22日(火)	地域包括ケアシステム講演会	川崎市医師会館
12月2日(土)	障害者週間キャンペーン	川崎駅・武蔵溝ノ口駅
4日(月)	平成30年成人を祝う会③実行委員会	地域福祉施設「ちどり」
7日(木)	平成29年度関東管内バリアフリーネットワーク会議	羽田空港国際旅ターミナル4階HALL
8日(金)	障害者週間連続セミナー	有楽町朝日スクエア
9日(土)	障害者週間記念のつどい	国際交流センター
1月5日(金)	平成30年成人を祝う会拡大実行委員会	市民プラザ
13日(土)	平成30年成人を祝う会	市民プラザ

平成30年 成人を祝う会に出席いただいたご来賓の方々 (順不同・敬称を略させていただきます)

川崎市長福田紀彦、川崎市議会議長松原成文、(福)川崎市社会福祉協議会会長佐藤忠次、川崎市議会健康福祉委員会委員長勝又光江、川崎市議会議員山崎直史、同・沼沢和明、同・石田和子、川崎市教育委員会教育長渡邊直美、川崎市健康福祉局長成田哲夫、(公財)川崎市身体障害者協会理事長中込義昌、(特非)川崎市精神保健福祉家族会連合会あやめ会副理事長清水信、(特非)川崎市障害福祉施設事業協会理事長星 栄、NRIみらい(株)代表取締役社長足立興治、(株)富士電機フロンティア代表取締役社長小形秀夫、(株)ココカラファイン・ソレイユ代表取締役社長大淵孝弘、(株)アイビー・シー・エス総務人事部長織原三樹、同総務人事部鈴木敬、アフラック・ハートフル・サービス(株) 事業統括部人事総務課長清水和香枝、イオンリテール(株)イオン新百合ヶ丘店メンズマネージャー泉高暁、コミカミノルタウイズユー(株)グループリーダー嶋田陽介、(株)東洋食品係長渡部裕之、(株)富士通ゼネラルハートウエア常務取締役鈴木義之、(株)ベネッセビジネスメイト東京事業部長菊野徳一、リゾートトラスト(株)主事松木直己、同・坂口亜矢、介護老人保健施設・樹の丘看護介護師長櫻井純子、市教育委員会学校教育部指導課担当課長増田亨、市立小学校特別支援教育研究会会長中村信一、市立中学校特別支援教育研究部会長代理、教職員組合執行委員長門倉慎児、総合教育センター高木正之助、市立中央支援学校PTA会長今井忠昭、市立田島支援学校PTA会長大澤清美、県立中原養護学校PTA会長藤井礼子、県立高津養護学校PTA会長田中雅美、市健康福祉局障害保健福祉部長宮脇護、障害者更生相談所(南部地域支援室)担当課長野木岳、(福)ともかわさき理事長小田島隆敏、たちばな施設長代理、(福)川崎市社会福祉事業団理事長長谷川忠司、KFJ多摩はなみずき施設長長谷川裕之、くさぶえの家施設長永井岳治、かじがや障害者サービスセンター所長相澤眞理、くりの丘施設長目崎和枝、(福)育福福祉会理事長星 栄、白楊園施設長市川高弘、しらかし園施設長住舎康子、小向このはな施設長藤野真一、わかたけ作業所施設長上原行蔵、(福)セイワ理事長代理・川崎授産学園園長石井和明、障害者支援施設みやうち施設長佐藤鎮男、(福)長尾福祉会理事長荒川佳紀、しらはた施設長坂爪順、セルフきたかせ勝亦明、あんてろーふ田島店店長代理、パセオやがみ施設長原祐介、(福)みのり会理事長代理・あーる工房施設長大坪明日香、まんまる社責任者羽鳥弘美、エンジョイ施設長代理、ダンウエイ(株)代表取締役高橋陽子



編集後記

昨年11月の広報委員会には、委員が作った関東甲信越川崎大会の資料表紙が多数持ち寄られました。そのうち表裏3組の試作が候補に選ばれ、今後の選考で1組が表紙を飾ることになります。並んだ表紙の試作を見ていると、良いものを作りたいというそれぞれの思いが伝わってきます。広報委員会の経験が浅い私ですが、思いを同じにしてあらためて携わっていこうと思いました。

広報委員 小澤 千枝

【もくじ】

- P. 1 結城会長あいさつ
- P. 2 平成30年成人を祝う会市長祝辞
- P. 3 成人の誓いの言葉
- P. 4 平成29年度障害者週間記念のつどい／民生・児童委員との懇談会
- P. 5 知的障害疑似体験／おしゃべり塾
- P. 6 権利擁護センター模擬相談会／地域包括ケアシステム講演会／研修会のお知らせ
- P. 7 やまゆり研修会／障害者週間「連続セミナー」
- P. 8 支部通信／研修会のお知らせ
- P. 9 田島支援学校学習発表／中央支援まつり／私たちの広場／やまゆり広告
- P. 10 ふれあいバザール／平成29年度障害者作品展／川崎大会お知らせ／賛助会費
- P. 11 親の会活動報告／成人を祝う会来賓の方々
- P. 12 成人を祝う会写真掲載／編集後記／もくじ

発行責任者 川崎市育成会手をむすぶ親の会 会長 結城 眞知子
〒213-0011 川崎市高津区久本 3-6-22 地域福祉施設「ちどり」
TEL : 044-812-2966 FAX : 044-813-1216 <http://web-k2.jp/ikusekai-kawasaki>